

平成17年5月13日

平成17年3月期 決算の概要について

シロキ工業株式会社
(輸送用機器 東証、名証第1部上場)
(*百万円未満以下切り捨てております)

1、連結決算について

3月31日現在の当社の連結子会社は国内6社、海外7社の計13社で、他に持分法適用の関連会社が3社であります。前期比で変更はありません。

(海外7社の内、昆山白木汽車零部件有限公司は昨年11月に、ビナシロキ有限会社は本年5月に解散を決議いたしております。)

売 上

【過去最高の売上。堅調な国内に加え北米、アジアが貢献】

当期の売上高につきましては、前期比で2.8%増の1172億6千万円で、32億1千8百万円の増収となり、3年連続で過去最高を更新いたしました。これは、得意先自動車メーカーの輸出向けの生産増加などによって国内売上が前期比1.2%増と堅調に推移し、これに加え海外も海外現地生産拡大によって北米は前期比6.5%増、アジアも前期比82.8%増と好調に売上を伸ばしたため、当社が、世界4極市場対応を視野にグローバル生産・供給体制の構築と受注の拡大に取り組み、同時に、国内における生産体制の整備・強化に取り組んだ効果であります。

国内売上

国内につきましては、主力のシロキ工業が前期比で2.1%増の915億7千3百万円で18億8千2百万円の増収となりました。これは、国内新車販売が低迷したものの、主要得意先自動車メーカーの輸出が好調に推移し、輸出向け生産が増加したことや、軽自動車販売の堅調な推移、そして期後半からの新型受注車種の拡販効果などによるものであります。

得意先別では、主力のトヨタグループ向けの売上が売れ筋車種の変化などの影響により前期比3.2%減となりましたが、日産自動車(株)が前期比46.1%増となり、新製品の導入効果などによって好調に売上

連結(上段当期、下段前期)

売上高:

1172億6千万円
1140億4千2百万円
(前期比2.8%増)

営業利益:

30億3千7百万円
45億6千万円
(前期比33.4%減)

経常利益:

33億4千4百万円
40億7千5百万円
(前期比17.9%減)

当期純利益:

9億円
16億7千3百万円
(前期比46.2%減)

1株当たり当期純利益

9円39銭
18円10銭

海外売上高比率

21.7%
20.2%

設備投資

64億2千3百万円
58億9千4百万円

減価償却費

53億4千6百万円
54億7千5百万円

を伸ばすことができました。一方で、三菱自動車工業（株）が前期比31.2%減と大幅な減収となりました。

海外売上

北米につきましては、北米生産拠点のSWマニユファクチャリング(米国・テネシー州)が、前期比で6.6%増の234億5百万円で、14億4千9百万円の増収となり、過去最高の売上となりました。これは米国現地のトヨタ自動車(株)向けが好調に推移したことによるもので、特にセカンドシート、サードシート、ウインドレギュレータなど当社製品の装着率の高い「シエナ」の台数増が大きく貢献いたしました。

アジアにつきましては、シロキタイランド(タイ・アマタナコン市)が前期比103.8%増の13億3千5百万円で6億8千万円の増収となり、設立3年目で単年度黒字化をはたしました。これは、昨年9月より現地トヨタ自動車(株)の国際戦略車「IMV」の生産開始に伴い生産を拡大したことにより、大幅に売上を伸張したものであります。

利益

【グローバル化とブランド力強化の先行費用増と

構造改革費用増などで減益】

利益につきましては、グループをあげて生産性向上や徹底した総原価低減に取り組んでまいりましたが、営業利益は前期比33.4%減の30億3千7百万円で15億2千2百万円の減益となり、また経常利益は前期比17.9%減の33億4千4百万円で7億3千万円の減益、当期純利益は46.2%減の9億円から7億7千3百万円の減益となりました。

主な増減益要因といたしましては、売上増加による増益効果や総原価低減活動による合理化効果で、価格競争や仕事量増加に係わるコストを吸収いたしました。また、原材料価格高騰による影響11億2千2百万円のほか、特に中国生産拠点(広州白木自動車部品)の立ち上げ費用1億7千8百万円や新製品開発に伴う費用増5億円などのグローバル化とブランド力強化を進める先行費用もあり、

得意先について(連結)

	(上段当期、下段前期)
・トヨタG	(66.7%)
	781億5千7百万円
	789億1千8百万円
	(1.0%減)
・売上高上位3社	
トヨタ自動車	(40.9%)
	479億6千2百万円
	520億3百万円
	(7.8%減)
トヨタ紡織	(13.1%)
	154億1百万円
	113億6千6百万円
	(35.5%増)
スズキ	(9.6%)
	112億1千7百万円
	111億2千7百万円
	(0.8%増)
日産自動車	(6.0%)
	70億5千3百万円
	48億2千7百万円
	(46.1%増)

* 社名横の()内は
売上構成比率

主要製品について(連結)

	(上段当期、下段前期)
シートクライナ・	
シートアジャスタ	(35.0%)
	410億1百万円
	405億5千3百万円
	(1.1%増)
ウインドレギュレータ	
	(28.0%)
	328億3千9百万円
	325億9百万円
	(1.0%増)
ドアサッシ	(18.0%)
	211億3百万円
	198億3千2百万円
	(6.4%増)

* 製品名横の()内は
売上構成比率

営業利益段階で15億2千2百万円の減益となりました。最終損益段階では、生産拠点見直しで工場閉鎖をした宇和島シロキの退職金4億7千6百万円や財務体質改善に向けた老朽化固定資産の除却5億7百万円などの構造改革費用も特別損失として計上いたしましたので、当期純利益は9億円で7億7千3百万円の減益となりました。

2、17年3月期の主な取り組み実績

[更なる成長を目指す基盤構築の年、 積極的に構造改革と先行投資]

当期は、特に将来の更なる成長を目指す基盤構築の年として、積極的に構造改革と先行投資に取り組み、生産体制の効率化・製品のグローバル供給体制構築のほか、高品質・高機能・低コストの「世界No.1製品づくり」によるブランド向上に努め、国際競争力強化に努めました。実施した主な取り組みは次の通りであります。

グローバル展開の加速

広州白木汽車零部件有限公司（中国）竣工

（本年3月）

- ・アジアでの生産・供給体制を強化し、世界4市場対応を加速

シロキタイランド（タイ国）の生産拡大（昨年9月）

- ・トヨタ自動車（株）「IMV」生産開始に対応
- ・ASEAN地区での生産・供給体制を強化
- 北米に第3の生産拠点構築の検討開始
- ・日系自動車メーカーの生産拡大に対応
- 部品の世界供給体制強化
- ・「IMV」の世界生産に対応しプローゼ社（独国）に部品供給開始（アルゼンチン、南アフリカ生産向け）

グループ事業の改革

宇和島シロキの工場閉鎖

（昨年8月）

- ・生産体制の効率化と強化

新製品開発の強化

製品の高付加価値化と競争力強化

「アルミドアサッシ」

（昨年9月生産開始）

- ・アルミ素材を使用し、従来品に対し30%軽量化
「8ウェイパワーシート」 (昨年9月生産開始)
- ・パワー式とマニュアル式の部品共通化を図った
低コスト軽量パワーシート

「後方格納シート」 (昨年9月生産開始)
- ・床下に格納できる小型・軽量・低コスト化を図ったサ
ードシート

3、平成18年3月期連結業績予想について

今期は、経営の効率化と企業体質の更なる強化とともに、世界四極市場への対応を万全なものとするべく、グローバル供給体制の加速、およびそれを支えるバックアップ体制の確立、そしてグローバルコスト競争力の構築とブランド力の定着に取り組み、総力をあげて世界競争に勝ち残りをはかってまいります。

売 上

[海外は堅調、国内は横ばいを予想]

今期の連結の業績予想につきましては、売上高は通期で前期比0.6%増の1180億円で7億4千万円の増収を予想しております。北米とアジアで増収となるものの、国内はほぼ横ばいと予想しております。

国内売上

国内市場は原油価格高騰によるガソリン値上げなどの影響や消費者の先行き不安などで、本格的な回復には至らないものと予想されます。国内生産も伸張は難しいものと思われるため、主力のシロキ工業の通期売上高は前期比0.7%減の909億円、6億7千3百万円の減収を予想しております。

海外売上

北米では、現地トヨタ自動車(株)向けの売上が引き続き堅調に推移し、SWマニファクチャリングの売上高は前期比3.1%増の過去最高の241億2千9百万円、7億2千4百万円の増収を予想しております。

アジアでは、シロキタイランドが現地トヨタ自動車(株)の世界戦略車「IMV」向けのウインドレギュレータの生

18年3月期予想 連結(上段予想、下段前期実績)

売上高

1180億円
1172億6千万円
(前期比0.6%増)

営業利益

22億円
30億3千7百万円
(前期比27.6%減)

経常利益

20億円
33億4千4百万円
(前期比40.2%減)

当期純利益

6億円
9億円
(前期比33.3%減)

1株当たり

予想当期純利益
6円01銭

設備投資

78億9百万円

減価償却費

60億2千1百万円

産が引き続き好調に推移すると予想されることから前期比 52.2%増の20億3千2百万円で、6億9千7百万円の増収を予想しております。また、本年4月より操業を開始した中国の広州白木自動車零部件は東風自動車向けにドアサッシ、モールディングなどを生産し、4億5千万円の売上を予想しております。

[世界4極市場対応を万全なものとする年。先行投資や構造改革費用増などで減益を予想]

利 益

今期はいよいよグローバル化が本格化する時期となり、このグローバル化の進展や規模拡大が確実に収益に貢献するよう一層基盤整備に力を入れてまいります。

国内につきましては、52車種、部品点数574点といった、かつてない規模での新規製品の立ち上げを予定しております。これに係わる立ち上げ費用増加や設備投資の増加負担4億3千2百万円が出てまいります。北米におきましては、日系自動車メーカーの生産拡大に対応する第3工場建設についても現在検討を進めております。アジアでは、シロキタイランド(タイ)が引き続き大幅な売上増加が期待でき、利益基盤もしっかりしてまいります。広州白木自動車零部件(中国)は操業初年度でもあり費用が先行いたします。このようなグローバル化の進展に伴う費用発生のほか、世界規模での鋼材価格の値上がりの影響14億円や、北米での健康・労災保険料を中心とした労務費の増加も懸念されます。また、構造改革の最終年度として、ピナシロキ(ベトナム)、昆山白木自動車零部件(中国)の清算に伴う子会社整理損や減損会計導入による影響を特別損失として見込んでおります。

このようなことから、通期の営業利益につきましては、前期比27.6%減の22億円で8億3千7百万円の減益、通期の経常利益は前期比40.2%減の20億円で13億4千4百万円の減益、また通期の当期純利益は前期比33.3%減の6億円で3億円の減益を予想しております。

4、18年3月期の主な取り組みについて

グローバル展開の加速

広州白木自動車零部件(中国)の操業開始(本年4月)

- ・東風汽車向けにドアサッシとモールディングを生産。
 - ・06年半ばより広州トヨタ自動車向けにドアサッシとモールディング、ウインドレギュレータの生産を予定
広州白木自動車零部件にプレス棟併設
(本年9月予定)
 - ・プレス部品生産によりドアサッシとウインドレギュレータを現地一貫生産
- 北米第3工場建設検討
- ・日系自動車メーカーの生産拡大に対応
シロキタイランド(タイ)でドアサッシの生産立ち上げを予定 (06年)

新製品開発

- ・ブローゼ社(独国)との協業強化
- ・新タイプウインドレギュレータの開発・生産立ち上げ準備

国内事業の強化

- 九州シロキに第2工場併設(来春予定)
- ・得意先の生産拡大に対応

グループ事業の改革

- 昆山白木自動車零部件(中国)の清算 (本年5月予定)
- ・広州白木自動車零部件に経営資源を集中させ、中国事業の効率化と競争力強化
ビナシロキ(ベトナム)清算 (本年8月予定)
- ・グループ経営の効率化推進

5、個別決算について

売上

[得意先の輸出向け生産堅調で売上2.1%増収]

シロキ工業単独につきましては、売上高は前期比2.1%増の915億7千3百万円で18億8千2百万円の増収となりました。新型車種の拡販効果とともに、主要得意先自動車メーカーの輸出向け生産と軽自動車販売が堅調に推移したことによるものであります。

売上高：

915億7千3百万円
896億9千1百万円
(前期比2.1%増)

営業利益：

27億1千8百万円
35億9千万円
(前期比24.3%減)

*

経常利益：

30億5千4百万円
37億9千5百万円
(前期比19.5%減)

特別利益：

1千2百万円
1億9千8百万円

特別損失：

13億9千7百万円
17億3千2百万円
・固定資産除却損
(4億9千3百万円)
・退職給付費用
(6億5千8百万円)
(*会計基準移行時差異
5年均等費用処理分)

当期純利益：

10億2千6百万円
12億1千4百万円
(前期比15.5%減)

1株当たり当期純利益

10円97銭
13円08銭

得意先について(個別)

- (上段当期、下段前期)
- ・トヨタG (60.9%)
557億8千9百万円
576億6百万円
(3.2%減)
 - ・売上高上位3社
トヨタ自動車(32.7%)
299億7千5百万円
321億5千万円
(6.8%減)
 - スズキ (12.2%)
112億1千7百万円
111億2千7百万円
(0.8%増)
 - トヨタ紡織(12.0%)
110億2千万円
103億6千9百万円
(6.3%増)
 - 日産自動車 (7.7%)
70億5千2百万円
48億2千7百万円
(46.1%増)

* 社名横の()内は
売上構成比率

利益

〔中国生産拠点立ち上げ、新製品開発費用増、 原材料高騰などで減益〕

利益につきましては、売上増加による増益効果のほか、徹底した収支改善活動などによる合理化効果などにより、価格競争や仕事量増加に係わるコストを吸収いたしましたが、鋼材価格値上がりの影響のほか、中国生産拠点立ち上げや新製品開発に伴う先行費用もあり、営業利益は前期比24.3%減の27億1千8百万円で8億7千1百万円の減益、経常利益では19.5%減の30億5千4百万円で7億4千1百万円の減益となりました。最終損益につきましては、退職給付費用や固定資産除却損などを計上した結果、当期純利益は前期比15.5%減の10億2千6百万円で1億8千8百万円の減益となりました。

6、平成18年3月期個別業績予想について

〔売上ほぼ横ばい、利益は原材料高騰などで減益を予想〕

通期の売上高は、前期比ほぼ横ばいの0.7%減の90.9億円で6億7千3百万円の減収を予想しております。通期の営業利益につきましては減収による限界利益の低下のほか、償却負担増や原材料高騰による材料比率の上昇などにより前期比37.5%減の17億円で10億1千8百万円の減益、通期の経常利益につきましても前期比28.0%減の22億円で8億5千4百万円の減益を予想しております。当期純利益は前期比2.5%減の10億円で2千6百万円の減益を予想しております。

主要製品について(個別)

(上段当期、下段前期)
シートリクライナ・
シートアジャスタ(34.8%)
318億7千4百万円
316億8千9百万円
(0.6%増)
ウインドレギュレータ
(24.7%)
226億2千1百万円
237億3千4百万円
(4.7%減)
ドアサッシ(22.0%)
201億1千1百万円
187億5千1百万円
(7.2%増)

* 製品名横の()内は
売上構成比率

設備投資

46億8千1百万円
41億7千3百万円

減価償却費

45億9千万円
45億7千8百万円

18年3月期予想

単独(上段予想、下段前期実績)

売上高

90.9億円
91.5億7千3百万円
(前期比0.7%減)

営業利益

17億円
27億1千8百万円
(前期比37.5%減)

経常利益

22億円
30億5千4百万円
(前期比28.0%減)

当期純利益

10億円
10億2千6百万円
(前期比2.5%減)

1株当たり

予想当期純利益
10円67銭

設備投資

53億5千7百万円

減価償却費

51億5千7百万円

この件のお問い合わせは：

シロキ工業株式会社 (0533) 84-4691

参与経理部長

大石

7

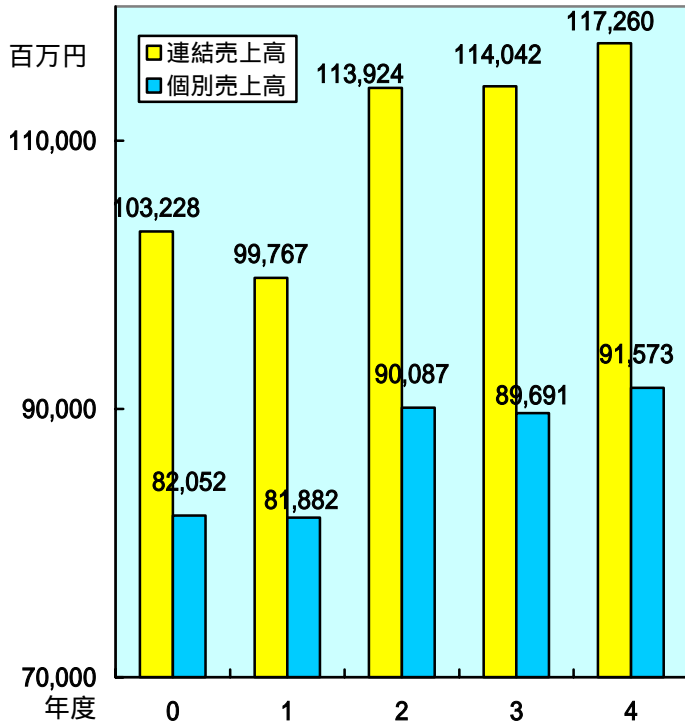
総務部広報担当

眞野 まで

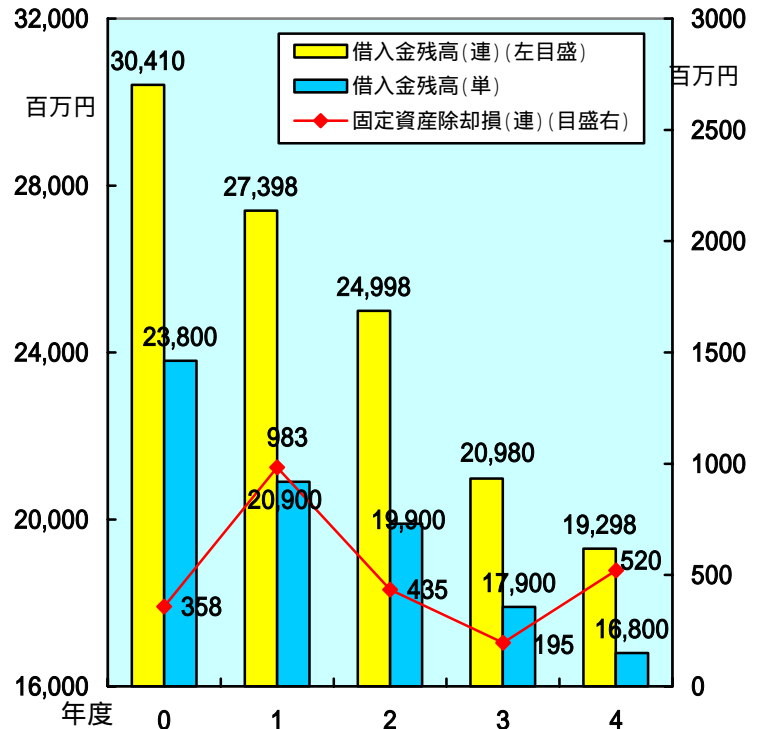
業績推移

シロキ工業株式会社

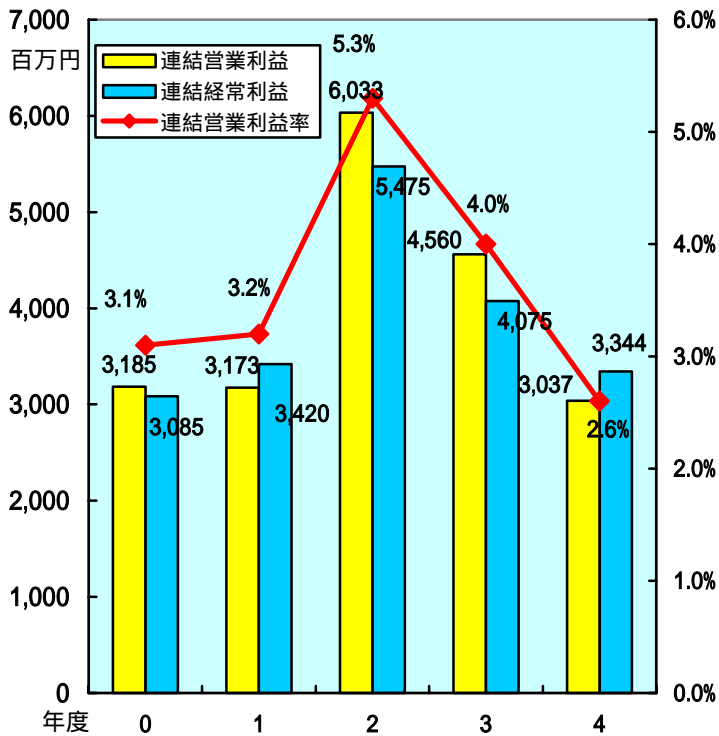
連・単売上高推移



財務体質改善の推移



連結利益推移



個別利益推移

